

X. ベトナム社会主義共和国

<要約>

	概要	特徴
1. 市場環境の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ○社会構造 <ul style="list-style-type: none"> ・ 総人口：9,364 万人（2017 年 IMF 推計） 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○経済環境 <ul style="list-style-type: none"> ・ 一人当たり GDP：2,310 ドル（2017 年 IMF 推計） ・ 実質 GDP 成長率：6.3%（2017 年 IMF 推計） ・ 1 ドル=22,774 ドン/1 ドン=0.005 円(2017/12/31) 	
2. 金融制度概要	<ul style="list-style-type: none"> ○銀行等の業態分類（機関数、総資産シェア、根拠法） <ul style="list-style-type: none"> ・ 国有商業銀行（4、45.7%、2010 年与信機関法） ・ 民間商業銀行（31、40.3%、2010 年与信機関法） ・ 合弁銀行・外国銀行現地法人・外国銀行支店（順に 2・6・50、合計 9.5%、2010 年与信機関法） ・ 人民信用金庫（1,147、1.0%、2010 年与信機関法） ○監督官庁：ベトナム国家銀行（SBV） ○金融資産 <ul style="list-style-type: none"> ・ 銀行預金残高（2016 年 10 月末）：5,812 兆ドン。うち、普通預金が 724 兆ドン、定期預金が 4,481 兆ドン、外貨預金が 607 兆ドン。 ○銀行による貸出等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 国内非政府貸出残高（2015 年 12 月末）：4,693 兆ドン ○預金保険制度 <ul style="list-style-type: none"> ・ ベトナム預金保険機構。1 金融機関、預金者一人当たり、5,000 万ドンが保証される。 ○金融税制（主な金融所得税率） <ul style="list-style-type: none"> ・ 預貯金利子：銀行・信用機関への預金からの利子は非課税。それ以外の利子は 5%課税。 ・ 投資商品：配当金は 5%、キャピタルゲイン純利益の 20%または売却価格の 0.1%課税。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国有商業銀行の預金残高、融資残高のシェアが低下している一方、民間商業銀行の預金残高、融資残高は増加しており、両者のシェアは均衡しつつある。 ○預金保険機構の設立根拠を法律にするとともに、預金保険の法的規制を強化し、関連の法的書類の有効性を高めるため、2012 年 6 月 16 日に預金保険法が設立。 ○証券投資よりも銀行預金を優遇した税制。

<p>3. リエンベト郵便銀行の概要</p>	<p>○郵便貯金制度・経営形態</p> <ul style="list-style-type: none"> • 2010 年までは、ベトナム郵便貯金サービス会社はベトナム郵便公社内の独立採算組織であったが、2011 年に民間商業銀行であるリエンベト銀行と合併し、リエンベト郵便銀行となった。 <p>○郵便公社等との関係・拠点</p> <ul style="list-style-type: none"> • リエンベト郵便銀行は 2015 年 11 月時点で、国内全 63 省/市にある約 100 店舗及び、1,067 の郵便局 (Postal Transaction Office, PTO) を通じて預金/貸出サービスを提供している。 <p>○サービス内容</p> <ul style="list-style-type: none"> • 民間商業銀行になってから、預金のほか、住宅ローンを始めとする各種貸付を行っている。 <p>○郵便貯金残高</p> <ul style="list-style-type: none"> • 2015 年 12 月末で、郵便貯金の残高は 23 兆ドン (預金残高全体の 25%)。 	<p>○ベトナム郵便貯金サービス会社とリエンベト銀行が合併したことにより、資本金や総資産等が急激に増加したとともに、ネットワークが拡大した。</p>
<p>4. 金融セクターにおけるリテール金融機関の特徴</p>	<p>○リエンベト郵便銀行</p> <ul style="list-style-type: none"> • 郵便貯金サービス会社と民間商業銀行の合併で誕生したが、ベトナム郵便公社と異なり、ユニバーサル・サービス義務は課されていない。 • 国内金融機関の総資産に占めるシェアは 1.5% (2015 年 12 月末)。 • 民間商業銀行として、他行に順ずる多様な商品を提供しているほか、協力関係にあるベトナム郵便公社が年金口座に関する唯一のサービス提供者と定められたことから競争優位を得ている。 <p>○人民信用金庫</p> <ul style="list-style-type: none"> • 中央のベトナム協同組合銀行と、1,147 の人民信用金庫によって構成される。政府が 99%を出資し、会員からの出資は 1%のみ。 • 国内金融機関の総資産に占めるシェアは 1.4% (2015 年 12 月末)。 • 人民信用金庫は会員/非会員両方から預金を受け入れることができるが、貸出は原則として預金をしている顧客向けに限られる (貧困家計の特例を除く)。 	<p>○リエンベト郵便銀行の預金金利は国有商業銀行とほぼ同水準だが、民間大手商業銀行より若干低い水準。</p>

5. 最近の金融動向と今後の展望

○リテール・バンキングへのシフト

- ベトナムの銀行は不良債権問題を抱えており、足元では改善が見られるとはいえ、リスクが高い企業向け融資には慎重である。そのため、リテール・バンキングの重要性が高まっている。

○マイクロファイナンスなどソーシャルファイナンス

- 2011年の与信機関法により新たに規定されており、預金の受入、国内/外国借入などにより資金調達している。貸出はドン建てのみとなっている。

○リエンベト郵便銀行の動向

- ベトナム郵便公社のネットワークを活用して業績を拡大させており、特に農村部へのサービスを一段と拡充させたい考えである。
- 法的な制約から郵便局（PTO）拠点数は1,100から増やせない状況となっているが、新規認可を求めている状況である。

- 銀行口座を保有している国民は2割程度であり、銀行等を補完するものとして、マイクロファイナンスやインターネット・携帯電話を利用したリテール金融が注目されている。